

道徳の時間で活用する ～正直、誠実～

光市立周防小学校 門田 絢子

1 本場面におけるポイント

- 「私たちの道徳」を活用し、同じ内容項目を視点を変えて繰り返し扱うことで、自己の生き方についての考えを深め、実践への意欲を養う。
- 資料をもとに、ねらいとする道徳的価値を自分の言葉で表現させたり、自分にもどって考えたりできるように、終末の時間を十分にとる。

2 授業の実際

1 主題名 自分の良い所をのぼして

資料「うれしく思えた日から」（私たちの道徳 P50～P52）

2 ねらい

「ぼく」の行動や気持ちの変化について考えることを通して、自己の成長のために大切なことを捉え、自分の特徴に気付いて、良い所を伸ばそうとする心情を養う。

3 展開

(1) 導入

「私たちの道徳」P47・48や、自己分析シートをもとに、自分の良いところや気になるところについて振り返り、今日のみあてへの意識付けや資料への意欲付けを図る。

教師：自己分析シートを見て、自分は「いい感じ」だと思う人？ 「まだまだ」
と思う人？

児童：（ほとんど全員が「まだまだ」に挙手）

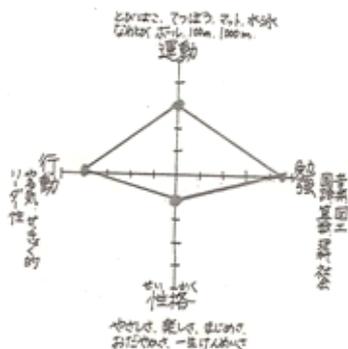
教師：良い所と気になる所、多いのはどちらですか？（わたしたちの道徳 P46・47）

児童：（良い所に挙手…3名、気になる所に挙手…14名）

教師：今日は、みんなと同じように自分のことを「まだまだだなあ。」「気になる所が多いなあ。」と思っている男の子の話を読んで、考えていきましょう。

□ 指導上の留意点

事前に自己分析シートに記入させ、自分を四つの観点から見つめさせたり、以前行った道徳の授業（自分の良いところ、気になるところ）を想起させたりすることで、資料と自分との関連性を図り、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。



気になる所	良い所
整頓が苦手 人前に出るとはかしくなる 自分の考えを言いつのが 苦手	大きな声が出せる えがおがたたくさん せがたかいこと

● 自分の良い所、気になる所を見つめてみましょう。

(2) 展開

資料を読み、「ぼく」の心の変化や行動の変化について考え、話し合う。

教師：一年後の「ぼく」になるまでに、「ぼく」はどんなことをしたと思いますか？
 A児：縄跳び、跳び箱、鉄棒の練習も、きつとしたと思います。
 B児：野球の練習をへとへとになるまでがんばったと思います。
 C児：あきらめずに、必死にやったと思います。
 D児：おまじないの言葉があったから、やれたと思います。
 E児：「ぼく」の気持ちも変わったと思います。

野球チームに所属して、いろいろな練習をした。あきらめず、必死にがんばった。おまじないの言葉があったから、やれた。



□ 指導上の留意点

一年後の「ぼく」になるには、行動や気持ちの変化があったことが理解できるよう、どんなことを「ぼく」がしたかを具体的に考えさせる。

(3) 終末

今日考えたことをまとめ、自分がこれからどうなりたいか考える。

教師：自分を成長させるために、大切にしたいことは何でしょうか？
 A児：強い気持ちで、あきらめない。一生懸命がんばる。
 B児：できないことも、あきらめない。
 C児：得意なことだからこそ、さらに伸ばしていく。
 D児：自分を信じる。

自分を成長させるために、大切にしたいことを書き出し、自分なりの目標を立てていく。
 目標達成に向けて、日々がんばる。

□ 指導上の留意点

ワークシートに、自分を成長させるために大切にしたい考えや行動を記入させることで、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるとともに、実践への意欲化を図る。

3 実践を振り返って

- 同じ内容項目を様々な切り口で繰り返し扱うことにより、自分の特徴に気付き、自己の成長のために大切なことは何かということ、具体的に考えた児童も多かった。しかし、自己肯定感や児童の実践意欲は一朝一夕には高まらないので、日々の実践で、認め合う場を継続して設定し、意識を高めていきたい。
- その時間で学んだ大切なこと（道徳的価値）を自分の言葉で表現させることで、児童の内面に切り込んでいく道徳の授業を展開することをねらった。児童の意見の的確な取り上げや板書の精選、教師が繰り返すことの必要性を強く感じた。

